

第1回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

このたび新設となりました標記の賞につき、会員の皆さまよりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2007年度の学会賞および推進賞として、下記3件の授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

◆第1回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

[賞の概要]

『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。

受賞	島本 浣 氏 (京都精華大学) 『美術カタログ論:記録・記憶・言説』(三元社, 2005)の業績に対して
受賞理由	美術カタログを「競売」「展覧会」「美術館所蔵品」「レゾネ」という4ジャンルに定義し、その発展を18-19世紀フランス美術界を背景にその歴史や記述内容、形式などを詳細に調べ分析し論じたものである。多年にわたる著者の実証的な労作であり、かつ他に類例がない。アート・ドキュメンテーションにとっても、図書館学にとっても重要なカタログ(目録)という機能の見直しに貴重な視点を提供している。今後、美術資料の解釈に関わって、一つの基本書となるであろう。

◆第1回野上絃子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

[賞の概要]

アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	美術図書館連絡会(ALC) 美術図書館横断検索の開発と公開に対して ※ ALC参加館: 東京国立近代美術館, 国立新美術館, 東京都現代美術館, 横浜美術館, 国立西洋美術館, 東京都写真美術館, 東京国立博物館 (*ALC検索順)
受賞理由	2004年、3美術館から発足したArt Libraries' Consortium (ALC)は、2007年冒頭、6館8室の美術図書館横断検索へ発展しているが、その経過は、あくまでも美術館図書室の現場に従事する者たちによるボランタリーな発想から展開されてきた。この試みは、近年、勤務環境の低減が続く図書館の現場において、その価値を広く世に広報する意義を発揮するとともに、多くが閉架に収められているこれら美術館図書室の資料の利用促進にも貢献している点で評価できる。

受賞	村上 正樹 氏 (マイブックサービス) 本学会の組織基盤の形成および美術カタログを含むアートブックの普及に果たした功績に対して
受賞理由	本学会の前身であるアート・ドキュメンテーション研究会設立にあたり、勤務先であるマイブックサービスにおいて事務局を引き受け、初期3年間の困難な活動を支えた。これは学会の成長の基盤を形成する上で極めて顕著な功績であったと言わねばならない。また、1970年代から30余年にわたり展覧会カタログを含むアートブックの普及に尽力するとともに、アート・ドキュメンテーション関係者間の連携役として本学会の存在を地方美術館等に知らしめた役割などは余人をもって代えがたい。